

壳木村誌 目次 上巻

題字

口絵

序文

発刊にあたって

凡例

前壳木村長 村松直人
壳木村長 松村增登
前壳木村長 村松直人

第一編 自然

第一章 地形と地質

第二節 地質

第一節 地形	三
一 壳木村の位置と地形の概要	三
1 長野県の最南端に位置する村	三
2 天竜川支流・和知野川の源流域	三
3 三河準平原がつくる高原状山地	四
4 三つの河川と壳木盆地	四
二 壳木村の地質の概要	五
1 基盤をなす領家變成岩類と花崗岩類	五
2 村の南端部に点在する第三紀層	七
3 平地を形成する沖積層	八
4 村の中央部を通る壳木断層	八
一 壳木村に見られる岩石や地層	八
1 泥岩や砂岩が起源の領家變成岩類	一〇
2 最も古い神原花崗岩	一〇

粒の大きい斑晶を持つ天童峡花崗岩	3
4 高原の滝と日本一のボットホール	三
5 風化の著しい巾川花崗岩	四
6 変成岩との接觸部に見られる柘榴石	五
7 採石されている武節花崗岩	五
8 転石に見られる捕獲岩や貫入関係	七
9 茶臼山周辺に見られる第三紀層	七
10 小規模な崖錐性の扇状地礫層	八
11 河床を埋める冲積層	九
12 推定断層の証拠を求めて	一〇
13 地形・地質と自然災害	一〇
第一節 壳木村の気候	三
一 壳木村の四季	三
1 遅い春	三
2 涼しい夏	三
3 早く訪れる秋	三
4 冬のきびしい寒さ	三
二 降水量の多い壳木村	六
第一節 気温	一
一 月別平均気温	一
1 日平均気温	一
2 最高気温	二
3 最低気温	二
4 最高・最低気温の年図	二
二 最高、最低気温の極値	三
1 最高気温の極値	三
2 最低気温の極値	三
3 近隣地区の気温の極値	三
三 寒暖日数	一
1 月別寒暖日数	一
2 県内外都市の寒暖日数	一
四 気温の累年変化	二
1 壳木の累年変化	二
2 飯田の累年変化	二
五 アテビ平の気温	二
1 月平均最高・最低気温	二
1 梅雨	一
2 台風の雨・秋雨	一
3 雪	一
4 梅雨	一
5 台風の雨・秋雨	一
6 雪	一
7 梅雨	一
8 台風の雨・秋雨	一
9 雪	一
10 梅雨	一
11 台風の雨・秋雨	一
12 雪	一
13 梅雨	一

第三節 降水量	2 寒暖日数
一 月別平均降水量	40
二 降水量の累年変化	40
1 月別累年変化	41
2 年総量の累年降水量	41
三 アテビ平の降水量	41
1 月別平均降水量	41
四 明治初期の積雪報告書	41
第五節 天気にかかるる俚諺	41
第六節 売木村の地下水の水質	41
第七節 売木村の水道水の水質	41
第八節 売木村の温泉	41
第三章 陸水	41
第一節 陸水の章のはじめに	41
第二節 売木村の降水の水質	41
第四章 植物	41
第一節 売木村の維管束植物	41
第二節 売木村で絶滅のおそれのある野生維管束植物	41
第三節 売木村の河川水の水質	41
1 河川水の水質を決める条件	41
2 売木村に降る酸性雨は河川水になる過程で改善されている	41
3 売木村の上流河川の水は、とてもきれいな水である	41
4 売木村の上流河川の水質は、売木村の地質を反映している	41
5 きれいな売木村の河川も人々の生活によって汚されている	41

1 保護を必要とするのはどのような植物か.....	西
2 レッドデータブックとは.....	西
3 村単位のレッドデータブックが必要なわけ.....	西
4 調査の概要.....	六
5 壳木村版レッドデータブックカテゴリーの定義について.....	七
6 評価の区分および方法.....	七
7 調査結果の概要.....	七
8 壳木村産維管束植物レッドリスト.....	七
9 絶滅・絶滅危惧種の解説.....	七
第三節 壳木村産維管束植物調査研究者一覧.....	四
第四節 壳木村維管束植物目録.....	四
第五章 動 物.....	四
第一節 脊椎動物.....	四
一 哺乳類の仲間.....	四
1 大型哺乳類.....	四
2 中型哺乳類.....	四
3 小型哺乳類.....	四
二 鳥類の仲間.....	五
第三節 両生類の仲間.....	五
1 イモリの仲間.....	五
2 サンショウウオの仲間.....	五
3 カエルの仲間.....	五
第四節 魚類の仲間.....	五
第二節 無脊椎動物.....	五
一 昆虫類の仲間.....	五
1 チョウの仲間.....	五
2 ガの仲間.....	五
3 甲虫の仲間.....	五
4 バッタやカマキリの仲間.....	五
5 トンボの仲間.....	五
6 セミの仲間.....	五
7 カメムシの仲間.....	五
三 爬虫類の仲間.....	五
1 ヘビの仲間.....	五
2 トカゲの仲間.....	五
3 カメの仲間.....	五
第四節 集落周辺の野鳥.....	五
1 あてび平小鳥の森の野鳥.....	五
2 水辺の野鳥.....	五

第二編 原始・古代

第一章 原始及び古代

第一節 売木村の概観	二五
一 南部丘陵地域の遺跡の特徴	二五
1 人類の進化	二五
2 遺跡の数	二五
3 南部丘陵地域の状況	二五
4 売木村の特徴	二五
二 下伊那にみられる遺跡の広がり	二五
1 古い年代	二五
2 旧石器時代	二七
3 繩文時代草創期・早期	二七
4 繩文時代中期	二九
5 繩文時代後期	二九
6 繩文時代晚期	三〇
7 弥生時代	三〇
8 弥生時代	三〇

9 売木村の特徴

第一節 売木村の考古学調査	二七
一 大正時代の調査	二七
二 松島透の調査	二七
三 第一次売木村誌の調査	二七
四 売木小学校土器クラブの表採調査	二七
五 大牧遺跡の発掘調査	二八
六 旧宝蔵寺跡の発掘調査	二八
第二節 旧石器時代の売木村	二八
一 旧石器時代の遺跡	二八
2 茶臼山遺跡	二八
3 岩倉貯水池上遺跡	二九
第四節 繩文時代の売木村	二九
一 繩文時代早期・前期の遺跡	二九

1	十座畠遺跡	三二
2	霧山遺跡	三三
3	下宮城遺跡	三九
4	軒山遺跡	三〇
5	軒山日向小沢遺跡	三一
6	二俣瀬東遺跡	三一
7	林遺跡	三一
8	下り沢遺跡	三一
9	栗矢沢遺跡	三一
10	樽ヶ沢遺跡	三一
11	泉元・伊豆作り遺跡	三一
12	軒山西III遺跡	三四
13	軒山東遺跡	三四
二 繩文時代中期の遺跡		三四
1	カンボー遺跡	三四
2	カンボー田代遺跡	三四
3	長下遺跡	三七
4	岩倉奥小屋遺跡	三七
5	八幡社付近遺跡	三七
6	半田遺跡	三七
7	長島遺跡	三七
8	大牧遺跡	三七
第五節 弥生時代の壳木村		三八
一 下伊那地方の弥生時代の遺跡		三八
2	二俣瀬南遺跡の堅穴	三八
3	壳木村の特徴	三八
第六節 古墳時代の壳木村		三九
第七節 奈良・平安時代の壳木村		三九
一 遺跡の広がり		三九
1	律令制度にかかる役所があった	三九
2	古社寺関係の遺跡	三九
3	山地生業にかかる遺跡	三九
二 平安時代の遺跡の位置		三九
第八節 中世の壳木村		三九
一 中世の遺跡		三九
2	八幡社遺跡・松葉遺跡の遺物	三九
3	上開土遺跡の火葬墓	三九
4	旧宝藏寺跡（この項松村全二）	三九

第三編 中世・近世

第一章 中世の壳木

第三節 壳木の郷土

第一節 開発期	西三	一 関氏	西九
一 鎌倉時代前後	西三	1 来住と出自	西九
二 荘園の設置	西三	2 勢力の拡大	西九
1 原野の開発	西三	3 関氏の滅亡	西九
2 伊賀良莊	西三		
3 江儀遠山莊	西三		
第二節 動乱期	西九	二 下条氏	西三
一 南北朝の対立	西九	1 下条氏の出自	西三
1 南北朝の争乱	西九	2 下条氏の発展と変遷	西三
2 宮方と武家方	西九		
二 浪合戦と尹良親王伝	西九		
1 浪合の戦い	西七		
2 浪合戦死の宮	西七		
3 浪合記と尹良親王伝	西六		
第四節 武田氏と織田氏	西九	一 武田氏の伊那攻略	西九
		1 武田氏の南下	西九
		2 三州武節谷合戦	西九
		3 美濃・三河への進攻	西九
二 武田氏の滅亡	西九		
1 信玄の終焉	西九		
2 長篠城と設楽ヶ原の敗戦	西九		
3 勝頼父子の自刃	西九		

三 織田氏の侵入	4 村上源助
1 武田方唯一の下条氏	三五
2 平谷表の合戦	三五
3 信長の根羽着陣と本能寺の変	三九
四 德川・豊臣氏の伊那支配	三九
1 家康の前期伊那支配	三九
2 伊那諸族の滅亡	三九
3 秀吉の伊那支配	三九
4 戦国末期の混迷	三九
第二章 近世の支配制度	
第一節 売木の支配者	
一 中世末期	三三
1 菅沼定利	三三
2 毛利秀頼	三三
3 京極高知	三三
二 近世初頭	三三
1 小笠原秀政	三三
2 朝日受水	三三
3 千村平右衛門	三三
第二節 知久預りと天領	
一 知久知行所	
1 阿島三千石	三四
2 知久氏と売木	三四
二 飯島代官所	三四
1 江戸幕府の代官制度	三四
2 飯島代官所の設置	三四
第三節 触書と村定め	
一 触書	
1 農民生活の規制	三九
2 多い僕約令	三九
3 博奕の禁止令	三九
二 慶安の触書と幕府の政策	三九
三 高札	三九
1 高札場	三九
2 揭示物の内容	三九

第三章 村の運営

第一節 村役人

一 村方三役	二 関所の入用
二 名主	一 関所の巡見
3 世襲制と交替制(年番制)	二 入用の内容
2 名主給	
3 名主の仕事	
4 組頭	
三百姓代	

2 村入用帳
二 関所の入用
一 関所の巡見
二 入用の内容

第四章 土地制度と貢租

第一節 檢地と耕地

一 檢地

1 檢地制度	二 檢地の実施
2 檢地の方法	三 檢地の心得
3 檢地の心得	四 壳木村の検地

二 耕地の分布

1 安永の新田検地	二 檢地の実施
2 檢地の種類	三 土地の開発

三 土地の開発

1 五人組の目的	二 五人組帳前書
2 五人組の組織	

二 五人組帳前書

六九

六三

第三節 村の経費

六九

第二節 貢 稟

一 村入用

六九

一 税 制

六九

一 村高と年貢高	四七	1 宗門帳	四九
2 本途物成・小物成と課役	四八	2 宗門改め	四五〇
二 年貢の割付	四九	二 村送り・寺送り	四五〇
三 年貢の納入	四二		
四 年貢割付の変化	四三		
第三節 助郷	四四	第六章 山林の利用と山論	四三
一 助郷制度	四四		
二 助郷の種類	四五		
1 本助郷	四五	第一節 近世の山林利用	四三
2 代助郷	四五	一 伊那の山林	四三
3 増助郷	四六	二 入会山と薪秣場年貢	四三
4 加助郷	四六	三 村持百姓山の活用	四四
5 当分助郷	四六	1 木材の売出し	四五
 		2 村持山の変動	四五
三 売木村の助郷	四六	3 作り山	四五
1 助郷役仰付	四六		
2 助郷村拒否	四七		
第二節 山論	四七		
一 新野との山論	四七		
二 越境事件	四七		
第五章 宗門と戸数	四九		
第一節 宗門	四九		
一 宗門と宗門改め	四九		
第三節 横木	四九		
一 伊那郡の横木	四九		

一 樽木の用途と変遷	四六	一段丘上の伊那街道	四三
2 樽木の種類と定法	四七	複雑な地形の遠州街道	四二
3 品等と価格	四八	信仰の秋葉道	四三
二 樽木成村	四九	四 売木の道	四四
三 樽木年貢	五〇	1 伊那街道へ	五三
第四節 木 地 屋	五一	2 遠州街道へ	五四
一 起源と制度	五二		
1 縁起伝承	五三		
2 木地屋の誇り	五四		
3 氏子狩り	五五		
二 下伊那の木地屋	五六		
三 生 活	五七		
四 売木の木地屋	五八		
1 入山の契約	五九	一 関所の設置	五六
2 村内の分布	六〇	1 関所と番所	五九
3 木地屋こぼれ話	六一	2 支配者	六〇
第二節 関 所	六二	二 関所の任務	六一
1 入鉄砲と出女	六三	1 入山の通行	六二
2 関所の通行	六四	2 通行手形	六三
3 村継ぎ	六五	1 庶民の旅	六四
四 関所の巡見	六六	2 往來手形	六五
1 宿割りと日程	六七	3 村継ぎ	六六
第七章 江戸時代の交通	六八		
第一節 交 通 路	六九		
第三節 中 馬	七〇		

一 中馬の発生と紛争.....	四五	二 地主層の農業.....	二一
二 中馬制度の確立.....	四五二	三 中馬慣行.....	四五三
三 中馬慣行.....	四五四	四 売木村の中馬.....	四五五
四 売木村の中馬.....	四五五	第八章 村民の生活.....	四五六
第一節 農民のくらし.....	四五七	第一節 飢餓と貯穀.....	四五七
一 売木の農業.....	四五八	一 凶作と飢餓.....	四五八
二 天保の凶作.....	四五九	1 災害と農民の生活.....	四五九
三 備荒貯穀.....	四五九	2 天保の凶作.....	四五九
1 制度の確立.....	五六〇	二 備荒貯穀.....	五六〇
2 村内の貯穀.....	五六〇	1 制度の確立.....	五六〇
三 疫病対策.....	五六一	2 村内の貯穀.....	五六一
第四編 社寺・文化財.....	五六二	三 疫病対策.....	五六一
第一章 社 寺.....	五六三	第一節 白鳥社.....	五六四
第一節 白鳥社.....	五六四	一 白鳥社の起源と祭神.....	五六五
二 神 像.....	五六五	二 神代櫻.....	五六六
三 社 殿.....	五六六	七 神代桜.....	五六七
四 舞台と笛踊り.....	五六七	第二節 宝藏寺.....	五六八
五 神 主.....	五六八	一 宝藏寺創建と住職.....	五六九
六 神社の運営.....	五六九	2 創建年と開山.....	五六九
7 祭典費は村費（戦前）.....	五六九	3 歴代住職と瑞光院の関係.....	五六九
8 神社財産.....	五六九	4 历代住職と開山.....	五六九
9 第二節 宝藏寺.....	五六九	5 歴代住職と瑞光院の関係.....	五六九
10 一 宝藏寺創建と住職.....	五六九	6 歴代住職と開山.....	五六九
11 2 創建年と開山.....	五六九	7 歴代住職と瑞光院の関係.....	五六九
12 3 歴代住職と瑞光院の関係.....	五六九	8 歴代住職と開山.....	五六九

3	宝蔵寺首座	四六
4	宝蔵寺と檀家	四七
二	宝蔵寺の堂宇	四八
1	横前の寺跡と火災	四九
2	宝暦年間の大普請	五〇
3	昭和十七年の堂宇	五一
4	昭和・平成の大普請	五二
三	寺 田	五三
四	山門（村指定文化財）	五六
五	涅槃図	五七
	第三節 観音堂と念佛講	五六
一	観音堂	五六
二	念佛講	五六
	第六節 彫刻家、應木と龍清	五六
一	伊藤應木	五六
二	伊藤龍清	五六
	第四節 太田稻荷神社とお練祭り	五六
一	太田稻荷社	五六
二	お練り行事	五六
1	お練りの起源	五六
2	祭りの様子	五六
3	お練りの復活	五六
	第五節 その他の宗教施設	五六
1	高森神社	五六
2	お薬師様	五六
	地名・呼称でみる村の今むかし	一〇一
	付 壱木村の地名考	